

## 国際緊急援助

被災地に寄り添った支援を、いち早く

地球規模の気候変動や地震・火山活動の活発化などにより、近年、自然災害の発生頻度が高まるとともに、その形態も、地震、火山噴火、風水害、森林火災、感染症の流行など多様化しつつあります。また、被害は年々激化する傾向にあります。

JICAは海外で大規模な災害が発生した場合に、被災国政府または国際機関からの要請に基づき、緊急援助を実施しています。支援の形態には、国際緊急援助隊(JDR: Japan Disaster Relief Team)の派遣と、緊急援助物資供与があります。

### 国際緊急援助隊の派遣

JDRには、救助チーム、医療チーム、感染症対策チーム、専門家チーム、自衛隊部隊の5つの派遣形態があります。

救助チームは、主に大規模な地震災害が発生した際に派遣され、これまで21回\*の派遣実績があります。警察、消防、海上保安庁から選抜されたレスキュー隊員、被災物件の安全を守る構造評価専門家、医療班、そして業務調整員などで構成されます。隊員は通常、各所属先で勤務していますが、災害が発生した際、関係行政

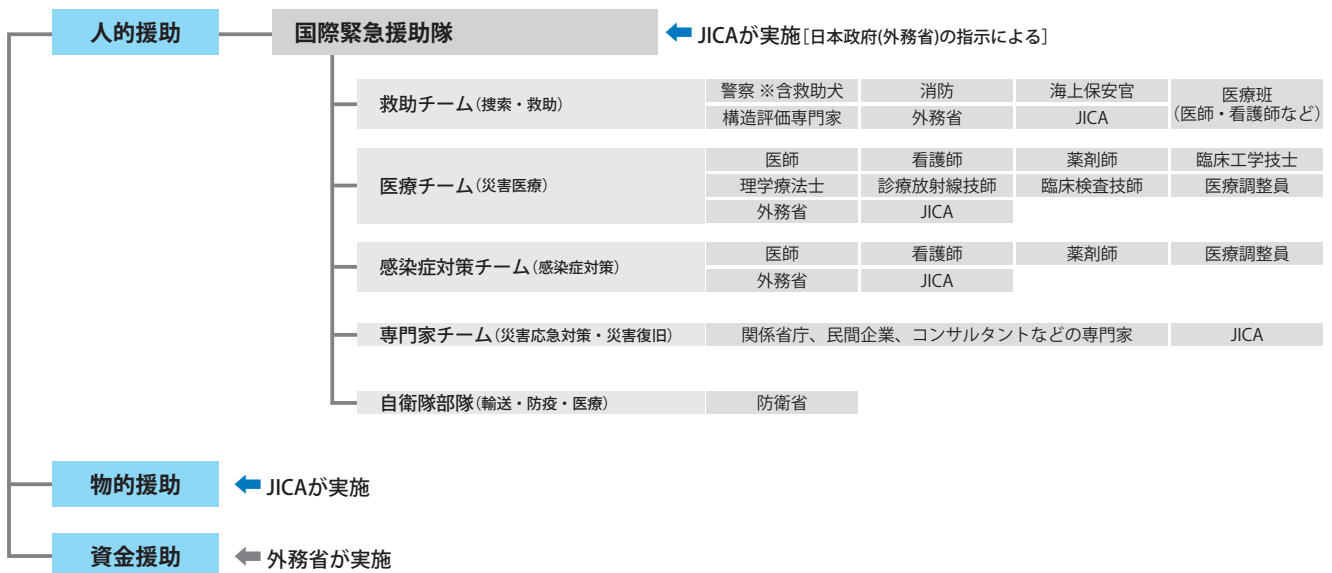
機関を通じて招集され、被災地に派遣されます。救助チームは、国際捜索救助諮問グループ(INSARAG)から3段階の評価のうち最高分類である「ヘビー」級チームとして認定されています。

医療チームは、被災地で医療活動を行うことを目的として派遣され、これまでに62回\*の派遣実績があります。派遣候補者の多くは医療機関などで勤務しています。JDR医療チームへの登録、研修・訓練終了後、海外で大規模な災害が発生した際に招集されます。2016年に世界保健機関(WHO)から世界で4番目に緊急医療チーム(EMT)として認証されたことで、従来実施してきた外来・初診機能(タイプ1)に加え、入院・手術・産科機能(タイプ2)や透析、外科にまで展開可能な活動範囲が広がっています。

感染症対策チームは、国際的に懸念される感染症流行の危惧がある場合に派遣され、これまでに6回\*派遣されています。研究機関、医療機関などに所属する専門家などが事前に研修・訓練を受け、出動に備えています。

専門家チームは、災害への緊急な対応や復旧・復興に向けた支援・助言を行います。これまでに55回\*の派遣実績があり、災害状況、現地二

### 日本の国際緊急援助体制



ズに応じて官民の専門家の協力を求め、都度チームを組織します。

自衛隊部隊は、人員や物資、資機材の輸送、そのほかJDRの活動に必要な場合に、外務大臣から防衛大臣への要請に基づき派遣されます。これまでに24回<sup>※</sup>の派遣実績があります。

### 緊急援助物資供与

JICAは海外の大規模な災害に対して、必要な人道救援物資を被災地へ迅速に供与する役割も担っています。緊急なニーズに対応するため、テント、毛布、プラスチック・シートをはじめ、災害地で必要となる基本的な品目をあらかじめ調達し、世界5カ所の倉庫に備蓄しています。また、森林火災、油流出事故、感染症の流行など、備蓄品以外でニーズがある場合は、物資を緊急調達して供与しています。これまで590件<sup>※</sup>の緊急援助物資の供与を実施しました。

### 2022年度はトルコ・シリア大地震被害に対し大規模オペレーションを実施

2023年2月6日、トルコ南東部を震源とする大地震が発生、激甚な被害が生じました。JICA国際緊急援助隊事務局では発災と同時に支援実施体制を立ち上げ、関係行政機関と協力し、発災からわずか12時間余りで救助チームを派遣。



トルコ：近隣住民が見守るなかでの捜索・救助活動。救助チームは地震発生翌日から7日間、活動を行った



トルコ：より高度な医療の提供に必要な医療資機材を輸送。医療チームは、野外テント内で初めて外科手術も実施した

異例の速さでの展開となりました。

これに続き、同10日からは医療チームを派遣。国際認証を受けた、手術や入院機能を持ち、高度な医療を提供できる「タイプ2」体制を初めて現地で展開しました。これまでの「タイプ1」相当での活動に比べ、展開規模は約3倍、輸送物資は5倍近くとなるなど、大規模なオペレーションとなりました。派遣も3次隊まで行われ、合計181人が現地で活動しました。また、「タイプ2」の診療に必要な医薬品・資機材など、30トンを超える大量の物資を輸送するため、自衛隊機による輸送が行われました。医療チームと自衛隊部隊の連携は初めてです。

さらに3月10日からは、復旧・復興に向けた助言を行う専門家チームが派遣され、被災地を踏査するとともに、トルコ側の専門機関、行政機関などと協議を行い、提言をまとめました。

激甚な被害をもたらしたこの災害に対し、緊急援助物資の供与も重点的に実施し、トルコに対しては2回にわたり、シリアに対してはシリア赤新月社を通じて、テント、毛布、スリーピングパッドなどを供与しました。

<sup>※</sup> 2023年3月末現在の実績。

先方政府関係者からは、これらの緊急援助が被災地の人々の命や健康を守ることに大きく寄与したのみならず、困難ななかで任務を遂行するJDR隊員の姿は被災者に大きな勇気を与えたと、繰り返し謝意が表明されました。

また、トルコでの緊急援助が進行する2023年3月、フィリピンではタンカーの転覆・沈没事故が発生し、流出油による海洋汚染、海岸漂着などが深刻化する事態となりました。これに対して油防除を支援するための専門家チームが派遣されました。

なお2022年度は、トルコ・シリアを含め、アジア、大洋州、中東、アフリカ、中南米各地域の国々に計19回の物資供与を実施しています【→下表を参照ください】。

### 平時からの応急対応への備え

JICAは日本の国際緊急援助活動の事務局として、JDRの機能や現地活動のあり方などを不断に検討し、実際のアクションに反映すべく、行動ガイドラインの策定、資機材の準備、関係機関などとの調整を行っています。また、迅速で質の高い展開能力を維持・向上するための専門的研修や総合展開訓練の実施、国際認証の維持や国際社会との連携協調を重視し、取り組みを強化しています。

このほか、技術協力プロジェクトにより、ASEAN地域における災害医療の連携体制の構築と能力強化を後押しするとともに、災害における応急対応から、復旧・復興に向けたシームレスな支援の展開に向け、組織を挙げた有機的な連携の下、事業を行っています。

### 2022年度国際緊急援助実績

No	支援時期	被災国・地域	災害区分	援助区分	派遣人数・供与物資など
1	2022年6月	アフガニスタン	地震	物資供与	毛布、プラスチック・シート、スリーピングパッド、ポリタンク
2	6月	キリバス	干ばつ	物資供与	ポリタンク、浄水器
3	7月	フィリピン	地震	物資供与	テント、ポリタンク、プラスチック・シート、スリーピングパッド、発電機
4	8月	パキスタン	洪水	物資供与	テント、プラスチック・シート
5	10月	ホンジュラス	水害	物資供与	テント、毛布、ポリタンク、浄水器
6	10月	キューバ	ハリケーン	物資供与	浄水器、簡易水槽、コードリール、アダプタセット
7	10月	グアテマラ	熱帯低気圧	物資供与	毛布、スリーピングパッド
8	10月	ツバル	干ばつ	物資供与	浄水器、簡易水槽
9	11月	ベリーズ	ハリケーン	物資供与	発電機、スリーピングパッド、プラスチック・シート、毛布、テント、変圧器
10	11月	南スーダン	洪水	物資供与	テント、毛布、プラスチック・シート、スリーピングパッド、ポリタンク、浄水器
11	12月	コンゴ民主共和国	洪水	物資供与	毛布、テント、スリーピングパッド
12	2023年2月	トルコ	地震	救助チーム	74名
13	2月	トルコ	地震	医療チーム	75名
14	2月	イラン	地震	物資供与	毛布
15	2月	チリ	森林火災	物資供与	消火活動用個人防護具、消火用資機材、被災者生活支援機材
16	2月	トルコ	地震	物資供与	テント、毛布、スリーピングパッド
17	2月	シリア	地震	物資供与	テント、毛布、プラスチック・シート、スリーピングパッド
18	2月	トルコ	地震	自衛隊部隊	39名(政府専用機×1機)
19	2月	トルコ	地震	物資供与	毛布、スリーピングパッド、発電機
20	2月	トルコ	地震	医療チーム	65名
21	2月	トルコ	地震	医療チーム	41名
22	3月	トルコ	地震	専門家チーム	11名
23	3月	フィリピン	油流出事故	専門家チーム	8名
24	3月	トルコ	地震	自衛隊部隊	24名(KC-767輸送機×1機) ※実績数値は、2月派遣分と合わせ1派遣。
25	3月	バヌアツ	サイクロン	物資供与	ポリタンク、浄水器、発電機
26	3月	マラウイ	サイクロン	物資供与	テント、プラスチック・シート、浄水器、ポリタンク
27	3月	モザンビーク	サイクロン	物資供与	テント、プラスチック・シート、浄水器、ポリタンク